

# 普及情報

## 現地における炭化物利用の取り組み

### 1 炭化物利用の始まり

管内での本格的な炭化物利用は、1995年頃にさかのぼる。神戸市西区、伊川谷町で、「籾殻くん炭を土壤に施用すると、軟弱野菜の根が白くなる。」という情報が広まり、一部の生産者が利用し始めたことに端を発する。

その後、各メーカーによる炭化物資材の商品化の流れにも乗り、地域ごとに生産部会や生産者が、炭利用による栽培上のメリットの情報を入手し、実践し、安定生産や品質向上につなげる技術として、普及し始めた。

### 2 現地での利用事例

炭化物を利用し、軟弱野菜を栽培している数名の生産者から利用方法や目的等を聞き取りしたので、その内容の一部を以下に、紹介する。

- (1) 資材 木炭、籾殻くん炭等
- (2) 施用年数 5～8年間連用
- (3) 施用方法

1作ごと、あるいは年間2～3回、耕土の3%程度(耕土100m<sup>2</sup>×3%=3m<sup>3</sup>/10a)を目安に施用。全層施用や播種後の覆土として利用する。

#### (4) 施用効果

有用微生物の増加(微生物の棲家としての働き)、塩類集積対策(栽培上で余分な成分を吸着)、土壤改良等。

#### (5) メリット

根が白くなる、葉の光沢が良くなる、日持ち性に優れるなど、生産物の品質向上につながる。また、生育が揃うという栽培上のメリットもある。

#### (6) 利用上の注意点

少量でも継続して利用することが効果を上げためのポイントになる。また、太陽熱消毒との併用が連作障害対策につながる。

#### (7) その他

聞き取りを行った生産者の栽培ほ場では、炭化物利用以降、土壤病害の発生はなく「炭化物の効果では…」という話が多く聞かれた。

### 3 今後の計画

西区における炭化物利用は、生産者技術として普及した。資材を利用する農家や流通量は増加傾向にあり、今後も拡大が予想される。

近年、試験研究機関からも、土壤改良等の効果が確認され、その成果報告がされている。今後、普及センターでは、安定生産や高品質化につながる炭化物利用に関する技術情報を、生産現場に伝達していく計画である。

北村紀二(神戸農業改良普及センター)



施設野菜ほ場への炭化物施用状況

## ひょうごの農林水産技術 No.141

平成17年9月1日(隔月刊)

兵庫県立農林水産技術総合センター(0790)47-2400

1部250円(申込先・県立農林水産技術総合センター)